

西播磨圏域自立支援協議会 活動記録（報告）

開催日時	令和5年10月24日（火）10:00～11:40
開催場所	太子町役場 行政棟3階 災害対策室
出席者	別紙名簿のとおり （障害児計画相談に関する連絡会7名、療育に関する情報交換会21名、市町部会2名）
内容	令和5年度 たつの・太子地区合同部会 （障害児計画相談に関する連絡会・療育に関する情報交換会・市町部会）
議事	<p>全体司会：太子町</p> <p>【開会】 堤より挨拶</p> <p>【事業所紹介】 堤より資料1・2に沿って報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所つなぐ(宍粟市)がR5.3末で閉所、相談支援事業所MAIN(太子町)がR5.3より開所 ・「はりま自立の家(宍粟市)」がR5.9末で児発・放デイを廃止宍粟市が事業継承し運営している。 ・新たに障害児通所4事業所が開所(kidsサポート(相生)、ForYou(たつの)、こどもオーケストラ(太子)、夢未来(太子)) ・初参加の2事業所が自己紹介を行なった こどもオーケストラ・・・8月に開所し、11月から児童発達支援も行う予定。運動療育を中心に行なっている 夢未来・・・放デイと保育所等訪問支援を行なう。中学・高校生を中心に学習支援を行なっている。来年度に職業体験型の放デイを開所予定。 <p>【障害児に関する計画相談について】 濱本 Co より資料3・4に沿って西播磨圏域障害児計画相談の状況を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績報告は、請求のあった件数のみである ・相談支援専門員人数と常勤換算の比較 ⇒兼務、非常勤配置が多数あり（人数よりも常勤換算が少ない） ・相談件数は増えているが、相談員の人数は増えていない。 ・支援現場の人材確保が難しい ⇒相談員の兼務の原因 ・西播磨はセルフプランを行なっていないが、待機している児は多い <p>【情報交換（30分×2部）】 ＜第1部 支援の難しい児や家族への対応について＞</p> <p>○1グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の難しい児には、支援の難しい保護者がいることが多く、支援者が相談したいときの窓口などの確認を行なった。 <p>○2グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童が増えてくる中で個別対応が必要な中で、トライアング

ルプロジェクトなどで支援関係者が繋がることの大事と思う。

- ・集団になじめない児童の対応や多国籍の児童の障害見極めの難しさ。

○3グループ

- ・家族への支援など対応が難しい時は事業所間での連携が大事である。
- ・今後、療育に繋がっていない児童への対応はどうすればよいか。

○4グループ

- ・事業所に来られない児にどう支援をするか難しい。
- ・不登校には中学生や高校生から支援が必要になる児が多くハードルが高い。支援に関わる機関が多いほど基礎が高く、コミュニケーション力や学習力につながっていく。
- ・受給者証を持っていない児はフリースクールを利用するなど、支援者が様々な支援方法を理解し支援することが大事。

○5グループ

- ・事業所内でも専門職がそれぞれいる中、職員間でどう連携していくかが課題である（専門職へのリスペクトする姿勢や育みなど）。
- ・医療的ケア児の送迎児に看護師などが同乗する際は実費負担になる。
- ・自治体によって計画書様式や基準が異なる。

○6グループ

- ・保護者の支援が必要な時は、保護者抜きで会議を行なうこともある。
- ・保護者の意向をくみすぎて、積極的な支援ができないこともある。
- ・学校と事業所の様子を共有できる機会を増やしてほしい。

<第2部 療育の支援体制を整える上で必要なこと>

○1グループ

- ・職員会議の場で研修での内容を共有している。
- ・利用者に保育士の仕事を体験してもらった例がある。

○2グループ

- ・専門職の確保が難しい。
- ・障害の特性や診断基準を学ぶ研修開催や支援計画の立案の難しさ。

○3グループ

- ・内部や外部研修でスキル向上を目指し、職種による障害への理解を共有していくことが重要である。
- ・人材確保のため専門学校や大学など関係を作ることで確保できるのではないかと思う。。

○4グループ

- ・産休や結婚退職などで職員が抜けた後の人材確保が難しい。福祉の経験がない人を育成していくも、長続きしないことが多い。
- ・ロープレや職員会議などで個々の支援内容を情報共有していく必要がある。

○5グループ

- ・太子町はトライアングル会議で協議の場があり、支援会議を行なっている。たつの市は単発でしか行えていない。
- ・どこまで関わっていくかに限界があり、特に保護者への支援が難しい。

○6グループ

- ・事業所単位ではあるが、専門性や支援の基本を教え合うことが大事。
- ・事業所（福祉）の知名度が低く、担い手が少ないのではないかと思う。

【その他】

- ・事務局からフローアップ研修について案内
- ・太子町より 11 月 25 日(土)にふくしフェスティバルの開催について案内

【閉会】

堤より挨拶